# 第9回

# 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会 報告書

# **Design to Next**

ウェルビーイングの実現に向けた これからの生涯学習・社会教育

~誰一人取り残さない社会を目指して~

共催|茨城県教育委員会、茨城県生涯学習・社会教育研究会

主管 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会

協賛 NPO法人ひと・まちねっとわーく、NPO法人インパクト、NPO法人日本スポーツ振興協会 (公財)茨城県教育財団、(公財)日本教育公務員弘済会茨城支部

後援 福島県教育委員会、栃木県教育委員会、群馬県教育委員会、埼玉県教育委員会 千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、茨城県青少年育成協会

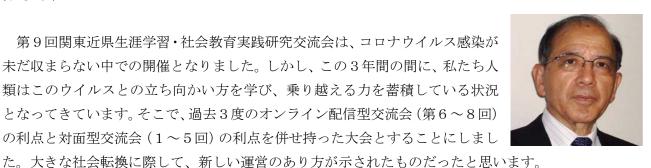
協力 国立教育政策研究所、茨城県教育庁社会教育主事会、茨城県市町村配置社会教育主事会

# <目次>

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
大会報告	
・大会日程及び開催形態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
<ul><li>オープニング····································</li></ul>	3
• 発表事例	5
<ul><li>クロージング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	23
振り返りとこれから	
• ポエム····································	24
• 第 9 回大会を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· · · · 25
• アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
• 座談会	30
参考資料	
・事業の実施体制	
・運営組織・活動内容	
・大会チラシ	
・参加者の内訳	
・実行委員会名簿	
・新聞記事	
・歴代大会テーマ等	
•編集後記	
・みんなで作り上げるページ	

#### はじめに

第9回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会は、コロナウイルス感染が 未だ収まらない中での開催となりました。しかし、この3年間の間に、私たち人 類はこのウイルスとの立ち向かい方を学び、乗り越える力を蓄積している状況 となってきています。そこで、過去3度のオンライン配信型交流会(第6~8回) の利点と対面型交流会(1~5回)の利点を併せ持った大会とすることにしまし



また、他の社会教育団体とのかかわり方を変え、本交流会が、「現代的課題」に応じて、他団体と新た な連携のカタチを模索し始めたことを感じさせるものとなりました。第8回交流会は「第44回全国公民 館研究集会」と合同の集会・交流会として行われました。そして、第9回交流会は、令和6年度に茨城(水 戸市)で実施される「第66回全国社会教育研究大会茨城大会」のプレ大会としての位置付けをもつこと になりました。公民館という「場」を作り続ける団体と社会教育委員という「人・組織」のあり方を作り 続ける2つの団体と「社会教育の現代的課題」を中心に生涯学習・社会教育の方向性を確認し合う本交流 会の連携が始まったということになります。また、課題の内容から「茨城県青少年育成協会」との連携も 実現しました。

第9回交流会のテーマは「ウェルビーイングの実現に向けたこれからの生涯学習・社会教育 ~誰一人 として取り残さない社会を目指して~」と設定し、子どもを支える活動を中心に3分科会9事例報告に 基づく報告・実践交流が実施されました。新築になった水戸市民会館に 262 名の参加者(対面 172 名、オ ンライン 90 名) を集め、4年ぶりの対面型分科会の楽しさが十分に発揮されたと思います。茨城県から の参加者のほか、福島県・栃木県・埼玉県・東京都・神奈川県・長野県など多くの都県から参加され、オ ンラインによる参加も加えると 16 都県の参加となりました。オープニングセレモニーでは、茨城県教育 長の森作宜民氏や国立教育政策研究所社会教育実践教育研究センター長の筒井公章氏、茨城県青少年育 成協会会長の大窪修二氏の挨拶をいただきました。

9事例の報告は社会教育の重要なテーマである「子ども」をめぐる課題を中心にコミュニティ・スクー ル、家庭教育、まちづくり、居場所づくり、不登校支援など、5 県から行われました。いずれも、子ども の発達環境の厳しさとそれに立ち向かう社会教育関係者の思いと工夫に満ち溢れたものとなっています。 クロージングでは、本実行委員会副実行委員長の池田馨氏のまとめと、「第 55 回全国社会教育研究大 会」に向けた決意表明を稲葉里子氏(茨城県社会教育委員会連絡協議会会長)からいただき、充実した一 日となりました。

対面型およびオンライン型による交流会に参加された皆様に感謝申し上げます。また、激動期であるこ の時期に、多くの時間と労力を提供し、交流会を成功まで導いてくださった実行委員会の皆様や関係諸 団体の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

また来年度の第 10 回交流会への道のりが始まります。私たちと社会教育委員の皆さんが有意義な研 究・実践交流ができるような集会になることを祈念して、報告書の挨拶といたします。来年、またお会い しましょう。

> 第9回大会 関東近県生涯学習·社会教育実践研究交流会実行委員会会長 菊池 龍三郎

### 大会日程及び開催形態

# ウェルビーイングの実現に向けたこれからの生涯学習・社会教育 ~誰一人取り残さない社会を目指して~

開催日令和5年10月28日(土)

開催形態 参集とオンラインのハイフレックス形式 ※会場は水戸市民会館

日 程 12:00~受付

12:30~オープニング

13:20~事例発表①

14:20~事例発表②

15:20~事例発表③

16:20~クロージング

16:35 終了

共催 茨城県教育委員会、茨城県生涯学習・社会教育研究会

主管 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会

協賛 NPO法人ひと・まちねっとわーく、NPO法人インパクト、NPO法人日本スポーツ振興協会 (公財)茨城県教育財団、(公財)日本教育公務員弘済会茨城支部

後援 福島<mark>県教育委員会、栃木県教育委員会、</mark>群馬県教育委員会、埼玉県教育委員会 千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、茨城県青少年育成協会

協力 国立教育政策研究所、茨城県教育庁社会教育主事会、茨城県市町村配置社会教育主事会

# オープニング

#### 【茨城県教育委員会 教育長 森作 宜民】



時代は今、急激な人口減少に加え、激動する国際情勢、気候変動問題、AI の飛躍的な進歩など、予測可能な延長線上の時代から、前例主義が通用しない、予測困難な「非連続の時代」にシフトしております。

茨城県教育委員会では、「いばらき教育プラン」に基づき、この 困難な時代を乗り越えるために、特に次世代を担う「人財」の育成 や、魅力ある教育環境づくりに取り組んでおります。また、「茨城 県生涯学習推進指針」のもと、未来を担う子どもたちを育む学びの 充実、生涯学習を推進する人づくり、多様な学びの充実、学びの成 果を地域づくりに生かす取組の充実に向けて、さまざまな施策を進 めているところです。

今回の大会は、「ウェルビーイングの実現に向けたこれからの生涯学習・社会教育」をテーマに、県内外の先進的な「子ども」に焦点を当てた、それぞれの地域の課題解決に資する事例発表や、参加者同士の交流を通した学びの機会を設けてございます。大会参加者の皆様にとって、現在の活動を振り返り、明日の持続可能な社会を創るきっかけになれば幸いです。

#### 【実行委員長(茨城大学名誉教授) 菊池 龍三郎】



2015 年にニューヨークの国連本部において国連持続可能な開発サミットが開催され、「持続可能な開発目標(SDGs)」の宣言が採択されました。これは、記念すべき本交流会第 I 回のちょうど直前でありました。SDGsの宣言を受け、我々は「宇宙船地球号」の一員として、常に問題意識をもって取り組んでいかないといけないという思いで、第 I 回の交流会に臨んだことを覚えています。

その後、皆様にご協力をいただきながら交流会を継続して開催していくことができました。ここで、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいます。しかし、考えてみると、これが大きなターニングポイントになったのではないかと思います。オンラインを活用しながら、知恵を出し合い、工夫を重ね、学びを止めないよう交流会を続けてまいりました。

コロナは落ち着きましたが、世界情勢に目を向けますと、紛争や 自然災害の頻発等、激動の時代に突入しています。改めて、私たち はこれからどう生きるのか、しっかりと考えていく必要があるので はないかと思います。

#### 【文部科学省 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター長 筒井 公章 氏】



今般の新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、「新しい生活様式」が定着するとともに、人々の新しいライフスタイルが浸透しています。

また、人生 100 年時代、Society5.0、DX(デジタルトランスフォーメーション)の進展など、急速な変化を続ける社会においては、生涯学習・社会教育の役割も、従来の枠にとどまらず、時代・社会の変化に見合ったものに変化が求められています。

令和4年8月に取りまとめられた「第 I I 期中央教育審議会生涯 学習分科会における議論の整理」では、ウェルビーイングの実現に 向けてについて触れられています。学校教育、社会教育、家庭教育 を含む、広い意味での学習機会を通じて、人生の各場面で生じる各 個人の課題に対応した学習機会、社会的な課題に関する学習機会が 保障され、個人の積極性・自発性・意思に基づく学習が持続的な活動として行われていく生涯学習社会の実現を目指す取組を今後も より一層進めて行かなければならないと提言されています。

今回の大会テーマは、「ウェルビーイングの実現に向けたこれからの生涯学習・社会教育 ~誰一人として取り残さない社会を目指して~」と設定されており、それぞれの地域で取り組まれた活動の報告や協議をとおして、皆様方の地域においてもウェルビーイングの実現に向けた生涯学習・社会教育の取組が活性化することを願っております。

#### 【公益社団法人 茨城県青少年育成協会 会長 大窪 修二 氏】



今回、来賓としてのご案内をいただきましたが、皆様と同じ活動する立場としてあいさつをさせていただきます。と言いますのも今年度の「誰一人取り残さない社会を目指して」というテーマは、当協会が掲げているテーマと同じだったからです。そのようなことから、本日は参加者の一人として、当協会の事業についてお伝えしたいと考えております。茨城県内では、ほとんどの市町村に設置されている「青少年育成市町村民会議」や青少年相談員(いばらき子ども見守りネットワーク)など青少年関係団体と密接な関係で活動しています。

さらに「茨城県 PTA 連絡協議会」をはじめ 100 近い正会員の皆様と活動している団体で、「大人が変われば子どもも変わる」理念のもとに活動しています。2019 (令和元) 年度からは、この交流会の副委員長でもおられます、茨城県生涯学習・社会教育研究会の長谷川幸介先生にご指導をいただきながら、「地域を編む孤立0(ゼロ)プロジェクト」という事業を立ち上げました。これは不登校、引きこもり、貧困、居場所づくりという課題に向かって活動しています。

当協会の課題については、どの団体も同様ではないかと思いますが、ボランティアの方や役員などの高齢化や後継者不足が問題になってきています。当協会では、将来を見据え 20 歳代の役員を迎えております。高校生や大学生など若者世代の息吹が、地域の青少年育成活動の活性化へ繋げていけるようにと願っています。

私をはじめ、当協会と本日ご参会の皆様は共に活動をしていく仲間です。一緒になってきめ細やかな網目を編んでいきながら、その網目から困難を抱える若者が落ちないような事業を展開していきたいと思っています。



# 学校を核とした地域づくりをめざす 「住みよい堅倉地区をつくる会」

住みよい堅倉地区をつくる会 会長 磯辺 寛 氏 事務局広報 郡司 恵美子 氏

#### はじめに

住みよい堅倉地区をつくる会は、茨城県小美玉市の堅倉地区にあります。約 130 世帯の会員がおり、みんなで協力して生活する地域です。

東日本大震災のときには小美玉市も大きな被害があり、2日間くらい水がでなかったり、電気がつかなかったりしました。住みよい堅倉地区をつくる会では、みんなでお米を持ち寄り、おにぎりを作り2日間で全家庭に配りました。困ったときにはお互い助け合い、みんなが協力する地域を目指しています。

#### 実践内容

昨年度(2022年度)より「住みよい堅倉地区をつくる会」では、学校と連携して9月の第1日曜日 【今年度は9月3日(日)】を登校日にして、防災教室を実施しました。防災教室では、全学年児童 が土石流体験車・段ボールベット組み立てなどの体験を行いました。成果として、全学年児童が、防 災の体験をすることができたので、防災への意識を高めることができました。課題としては、コロナ 禍もあり児童のみで行ったので、保護者・地域の方が参加することができませんでした。

今年度は、保護者・地域の方も参加できるようにし、午前8時の防災無線を合図に一斉に避難し、 防災教室を開始しました。避難チェックカードを活用し、実際に地震があったときにどのように避難 するのかを体験しました。そして、地区ごとに集まって人員を確認し、その後、学校に集合しました。

また、今年度(2023年度)は、6年生は防災体験に加え、地域の方と防災についての学習会を行いました。地域の方から、東日本大震災の時の様子などについて詳しく聞くことができ、充実した学習会となりました。参加した子どもたちの感想には、「今回の授業で、印象に残ったことがあります。それは東日本大震災の時に、堅倉の地域の人たちが協力して食料などを配っていたという話です。地域の人を集めて行動する力や困っている人を見捨てない思いやりの心が印象に残りました。もしも東日本大震災のような大きな地震が起きた時には、この防災教室を思い出して、地域で助け合いたいと思いました」とありました。



地域の方との防災学習



防災体験

#### 【成果】

- ・今年度(2023年度)は保護者・地域の方も参加できたので、防災教室を通して子どもたちと地域の方が関わったり、接したりすることができるきっかけとなりました。
- ・6年生は防災体験に加え、地域の方と防災についての学習会を行ったことで、地域の方から東日本大震災のときの堅倉の様子を詳しく聞くことができました。
- ・防災管理課・市民協働課など連携したり、消防署・消防団などに協力をいただいたりしたことで 充実した防災教室を行うことができました。
- ・防災教室を通して、大人から子どもまでみんなで助け合う地域づくりにつながりました。

#### 【課題】

・バス送迎も行いましたが、保護者の方の参加が少なかったので、来年度は広報の仕方などを工夫 してたくさんの方に参加していただきたいです。

#### 質疑応答

- Q 会長の年齢を教えてください。
- A 若い方々と一緒に活動していると若返ってくる。
- Q 会長の「お人柄」で何とかなっている組織ではないか。
- A 熱い気持ちをもち続けることが大事。やりたいことを語る、夢を語ると人はついてきてくれる。 「来る者拒まず、去る者追わず」の気持ちでやっている。しかし、時代と共にリーダー論は変化 している。若いリーダーを育てることも意識している。
- Q 組織や体制も含めて、学校の先生方の反応はいかがか。
- A (堅倉小学校長の回答)これまでは、地区との行事はほとんど学校側が企画していた。しかし、 つくる会が企画・運営してくれるので、その点でいうと、かなり負担感の変化を実感している。

#### 当日の様子

#### <発表を終えての感想>



小・中・高校生をはじめ、若い方にも参加していただきたい。 これからも熱い気持ちをもって地域のために活動をしていきたい。ボランティア活動をすることで、様々な人とのつながりが増えてきました。地域の大人や子どもたちのためにやりたい活動を話し合い、会長はじめみんなで叶えていくことが楽しい。

発表の様子

- 会長の声掛けによって、たくさんのメンバーが集まるネットワーク カやフットワークカ、また、地区や子どもたちのために楽しみなが ら活動しているという話に感銘を受けました。
- 「子どもたちが地区の大人と関わりながら活動することで、授業では見られない笑顔が見られる」という学校の先生の声を多くの方々に知ってもらいたいと思いました。



会場の様子



# 居場所つくりから考える、みんなで 社会で子どもを支える"協育"の取り 組みについて



NPO 法人ターサ・エデュケーション 代表理事 市村 均光 氏

#### はじめに

私たちは2015年7月に群馬県前橋市で「すべての子どもたちが未来にときめく社会」をビジョンに掲げ、子どもの貧困や不登校等の子どもに関する社会課題に対して、「子どもの可能性をフェアにする」をミッションとし、課題を抱える子どもたちに学習機会と居場所を提供する活動を行っています。学習動画の作成やひとり親家庭や児童養護施設への学習支援、フリースクールの運営や不登校親子の交流イベントの企画運営等に取り組み、法人設立からの8年間で10,000人を超える子どもたちに支援を届けてきました。

#### 実践内容

私たちは2016年9月、不登校児童生徒を対象とする群馬県初のフリースクールである、「こらんだむ」を前橋市に開校しました。こらんだむの運営方針は、①多様性を尊重し、個性を受け入れる安心安全な居場所の提供、②興味関心に寄り添い、やりたいことを見つけられるサポート、③やりたいこと実行をサポートし自立の促進の三つです。子どもの状態に合わせて、段階的な支援に取り組んでいますが、最も大切にしていることは、子どもたちの安心安全な居場所つくりです。

文部科学省の調査にあるように不登校になる要因はさまざまです。友人関係のこと、先生のこと、勉強のこと。子どもたちそれぞれが違った理由で悩みを抱え、不登校という状態になっています。ただ人間関係や学習での悩みは不登校になる子だけが特別に感じることではありません。全ての子どもは学校生活の中で悩みや不安を抱える中で成長していきます。しかしそのためには、悩みが生まれたときに支えてくれる存在、心の拠り所としての居場所がなければ乗り越えることができない子どもがいる。結果として顕在化された状態が不登校であり、だからこそ居場所つくりが不登校児童生徒にとって最も重要であると考えています。

多様なプログラムや教育環境を整備しておりますが、まずは利用する子どもが笑顔になり、安心して過ごせることが最も大切です。これからも居場所つくりを前提に、一人一人に伴走しながら、子どもたちの社会的自立を応援していきます。



卒業式集合写真



日常風景

#### 【成果】

2016年9月に開校以来、100人以上の不登校児童生徒が利用し、卒業後には高校進学や高卒認定取得、学校復帰など9割以上に良い変化が生まれています。さらには生徒会長として活躍する子や難関の芸術大学に合格する子、自分の趣味に没頭し制作物がネットニュースになった子など、それぞれが自分のやりたいことに向け挑戦し、力強く生きている子もいます。こうした成果が各小中学校や県市町村教育委員会から高い評価を得ており、出席認定や学割定期券の発行については、問題なく認めていただいています。

#### 【課題】

財政面が課題です。運営を安定させるためには利用料金を高く設定することが効果的な手段ですが、私たちは、「すべての子どもたちが未来にときめく社会」をビジョンに掲げていることから、できる限り多くの不登校児童生徒が利用しやすいように、ひとり親家庭など経済的に厳しい世帯に対して、集めた寄付金を原資に利用料減免の取組を行っています。ただ寄付金を集めることは容易ではなく限りがあるため、受け入れることができない不登校児童生徒もおります。希望する子どもたちを受け入れていくためには、より多くの寄付金を集めることや行政からの支援が必要です。

#### 質疑応答

- Q フリースクールの職員の人件費、運営費等の捻出方法はどうしていますか。
- A 利用料金を負担してもらっています。また、複数のプランがあり、一番高いプランは毎日通って、 3万7,000円です。ひとり親世帯は半額とし、集まった寄付金をこちらに充てています。公的な 補助金は、今のところはありません。
- Q 学校・教員に知っておいてほしいことやお願いしたいことはなんですか。
- A フリースクールについて各学校の考え方に違いがあり、活動内容によって出席扱いにならないことがあります。また、不登校はすぐに解決しないので、学校が全て対応すると教員の負担が増えてしまうので、一定のレベルを超えた児童・生徒は支援センター等に依頼するなど、住み分けをしてはどうか。

#### 当日の様子



発表の様子

#### く発表を終えての感想>

フリースクールは、新しい教育手法や学びと考えますが、不登校を考えると、第一に児童・生徒の居場所づくりが大切です。居場所があれば幸せになる子どもが増えます。これからも、様々な課題の支援をすることで、子どもの教育を地域社会全体で支える「協育」の実現を目指していきたいです。

- 子どもの貧困問題の課題解決に向け、人のつながりをつくるための「居場所づくり」に着目した点が素晴らしいです。子どもに応じて多くの時間をかけることが実現されているので、個に応じた成長につながると思います。
- ・学校だけでは不登校の子どもとの関わりに限界があるので、学校とフリースクールが連携して、子どもの笑顔を増やしてほしいです。



会場の様子



# 家庭教育、子育て支援活動の取組を 通して



NPO 法人 ネットワークサポート親楽 理事 大谷 孝子 氏

#### はじめに

私たちは2009年(平成21年)5月に古河市生涯学習課主催のファシリテーター養成講座修了生有志が古河市の家庭教育力向上のため「古河親楽ファシリテーターの会」を発足し、活動を開始しました。その後、2021年(令和3年)7月に「NPO法人 ネットワークサポート親楽」を設立しました。取り組んでいる事業は、主に古河市からの依頼のものと法人独自の二本柱となっています。どの事業においてもファシリテーターとしてのスキルを活かし活動しています。

#### 実践内容

古河市教育委員会作成の「親楽ブック」を使った学習会の内容は、家庭教育学級、就学時健康診断におけるファシリテーション活動、中高生・乳幼児ふれあい交流事業、家庭教育担当者説明会、ファシリテーター養成講座講師、初心者向け Zoom 体験講座、会独自のスキルアップ練習会開催等です。 法人事業としては、現在8つの事業を行っています。

①子育て中のママ集まれ、②子育て中のパパ集まれ、③マミーズサロンの三つにおいては、前半が親子一緒の活動、後半が子どもたちは託児スタッフがお子さんをお預かりし、親だけの交流会を行います。④0歳から聴けるわくわくコンサートは、開催時期に合わせて季節を感じてもらえるような内容で企画しています。⑤Zoomデトークは、シニア世代を中心に操作方法の練習、復習を兼ねた内容や、お話し会などオンラインを通しての集いの場の提供を行っています。⑥シニア'sサロンは、自称シニア世代を中心に歌をうたい、フレイル予防の健康体操、お話会などで仲間づくりをし、楽しい時間を過ごしています。⑦野菜収穫体験は、今年は地元農家さんの協力の下、夏にはトウモロコシ、ニンジンを、秋にはサツマイモ掘りを行いました。⑧託児研修では、保育士さんの協力の下、実際に使用している会場での託児時の安全な会場づくり、注意点についての講習の他、実践を通した話の聴き方についても学んでいます。いずれもファシリテーターのスキルを活かした事業展開をしています。



O歳から聴けるわくわくコンサートの様子



お芋掘りの様子

親楽ブックを使った参加型学習会や法人各事業において、三つの約束「参加」「尊重」「守秘」をお伝えしています。参加者の皆さんの感想からも、安全安心な居場所づくりを行うことで本音のお話が出来ていると感じます。「引っ越してきたばかりで、人のつながりもない中、参加した講座でした。夫にもパパ講座の受講を勧めます!」「託児があったので、ゆっくり大人と話せた」など、親自身のリフレッシュの時間にもつながっており、講座リピーターさんや新しく参加してくださる方とも、新しいつながりが増え、参加者同士のネットワークづくりにつなげられたことに成果を感じます。講座では、無理につながる必要はなく、ただ一人とでもつながり、講座後の日常につながってもらいたいという思いがあるので、「講座後も会っています!」などのお話を聞くと、大変うれしく思います。

また、今後検討していきたいことは、必要な方へ届けるための周知方法や、活動資金のほか、講座 開催にあたり会場の確保が困難な場合があること、事業数に対してのスタッフなども調整が必要な ことがあります。スタッフ間では、アサーティブに意見を伝え合い、居心地の良い場づくりをするこ とを大切にしています。様々な世代がいる法人の特徴を活かし、よりよい組織づくりへつなげたいと 思います。

#### 質疑応答

- Q 活動を持続させることが大切であり、課題となってくると思うが、持続させることは何か。また、 メンバーの構成を教えていただきたい。
- A いろいろな行事ごとの担当を決めておき、できる範囲で実施するようにしている。また、余裕のあるスケジュールにしている。行事に関しては、自分が関わることのできるものを選ぶようにしている。メンバー構成は、20代から70代です。
- Q 市からの依頼と NPO としての事業の割合はどのような感じか。市からの補助の状況と講座の実施状況を知りたい。
- A 市からの依頼は、市内小中学校 32 校の家庭教育学級の実施である。NPO としての活動は、月に 1~2回の行事がある。コンサートは年1回、ママ・パパ集まれは2カ月おきに実施している。

#### 当日の様子

#### <発表を終えての感想>



皆さん協力的に参加していただいて、楽しく発表をすることができました。とてもいい雰囲気の中で発表ができましたことに、感謝します。

いろいろな立場の人に発表を聞いていただけたのが、とても良かったと思います。

発表の様子

- ・始めのアイスブレイクからとても良い雰囲気で、楽しくお話を聞くことができました。継続して活動することの大切さを実感することができました。
- ・幅広い世代に働きかけていて、素晴らしい活動であると思います。その活動を持続可能とするための工夫がされていて、とても参考になりました。ありがとうございました。



会場の様子



# 大学生や高校生によるオンラインでの 不登校支援とコーディネート



For Everyone Study 代表兼コーディネーター 植竹 智央 氏

#### はじめに

2020 (令和2) 年からのコロナ禍で、ボランティアをしたい大学生がボランティアを行うことが困難となり、学生時代に学外での社会教育の場に参加することが難しくなった。同時に、小中学生の不登校の人数は年々増加しており、青少年や若者の世代では、社会とのつながりが希薄になりつつある。このような状況下で私たちは、大学生や不登校経験がある高校生をオンラインで不登校児童生徒とつなぐことで、社会的なつながりをつなぎとめる活動を行っている。約3年間の活動の実践を発表した。

#### 実践内容

私たち For Everyone Study (以下、FES と略す) は、主に三つの活動と、共同研究を行っている。一つ目は、不登校又は登校渋りの児童生徒へのオンライン支援活動である。大学生や不登校経験のある高校生たちが児童生徒と1対1で、週に1回1時間を原則として Zoom でつながる。内容は、学習のサポート (=学習支援) と、話し相手になったりゲームを行ったりする活動 (=コミュニケーション支援) である。現在は、18人の児童生徒が支援を受けている。

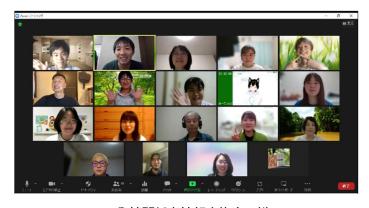
二つ目は、不登校関係者情報交換会である。2か月に1回、平日の夜にオンラインで行っている。 FES スタッフ、教員、不登校の子をもつ保護者、不登校支援団体などが参加し、互いの立場を超えて 意見交換を行う場となっている。

三つ目は、オンラインゲーム交流会である。毎月1回、平日の夜に行っている。大学生たちと複数の小学生たちが、オンラインゲームを通して交流する機会を創っている活動である。

最後に、共同研究として、心理・福祉分野の大学の先生たちと一緒に活動を行っている。自分たちの活動を「活動したままで終わらせない」ことをモットーに、新しく不登校支援を行おうとしている人々や他分野の支援活動に活かしてもらえるよう心がけている。



1対1の支援活動の様子



不登校関係者情報交換会の様子

私たちの活動は、これまで累計で46人の児童生徒を支援してきた。その中には、活動を受けてい た側の生徒が支援をする側に回るケースも存在する。また、放課後登校、適応指導教室・通級指導教 室への登校ができるようになったケースもあれば、新しく習い事やアルバイトを始めたというケー スもある。

しかし、私たちは不登校や登校渋りの児童生徒を登校させるということを目標としていない。「こ の活動を受ける前よりも人と関わりたいと思えるようにすること」を理念とし、それに沿った効果が 得られていると感じる。

また、小学校低学年の子をもつ保護者からは、「この活動のおかげで家事を行う時間を確保できた り、体調不良のときも一時的に子どもを預けることができたりして助かる」という感想をいただいて いる。このことから、児童生徒だけでなくその保護者にとっても良い影響をもたらしているといえる。

これまでの主な受賞歴としては、昨年度、こども環境学会のポスター発表にて優秀賞を受賞した。 さらに、「いばらきチャレンジアワード『支え合い 2022』」という社会課題を解決する活動を行って いる団体のコンテストでは、茨城県知事賞を受賞した。また、第1回こども家庭庁のこどもまんなか アワードの「こども・若者活動奨励章」の未来をつむぐ「こども・若者」部門を受賞した。

現在の課題は、年が近い先輩が新しく運営に参画してくれるスタッフの指導や育成を行うための 土壌づくりと、支援を受けたい方へのアプローチの手段を増やすことである。

#### 質疑応答

- Q さまざまな人とのつながりづくりの工夫を教えてください。
- A 私たちはオンラインツールを使っています。こどもが利用している時に保護者は家事ができる メリットがあります。対面だと、こどもを連れてくるだけで保護者の負担になっているのではない かと思います。
- Q 情報交換会の成果を教えてください。
- A 相手側の事情が分かると、よい話合いになります。保護者は学校の事情を、学校は家庭の事情を 分かればお互いに歩み寄り、解決につながることもあります。

#### 当日の様子

#### く発表を終えての感想>



発表の様子

こどもたちには、彼らが幼いときから、安心できる他者がいる ことの大切さを伝えたいです。最近では、私たちのような活動が 広がってきています。また、活動に関する問い合わせは、ネット からよりも、保護者の口コミが圧倒的に多く、私たちの活動への 関心と評価を得ているようです。

- 対面支援に心理的負担を感じやすい子どもや保護者にと
- って、オンラインの支援はメリットが多いです。 若者が若者を支援し、さらに若者を支援する仕組みに成功しているに感動しました。



会場の様子



#### 子どもの笑顔が地域を創る

~「元気っ子事業」を通しての"人の輪""組織の輪""地域の和" の確立を目指して~



会瀬学区コミュニティ推進会 青少年育成部/会瀬小 CS 副会長 豊田 義幸 氏 副会長・事務局長/会瀬小 CS 地域コーディネーター 柴田 百恵 氏

#### はじめに

2004 年(平成 16 年) にスタートした地域コミュニティによる元気っ子事業を継続活動しています。 保護者のニーズを的確にとらえ、また各制度を有効活用し地域ボランティア・保護者の地域活動参画 のための仕掛けづくりや人材育成・地域協働体制の確立・更なる強靱化のための活動をしております。 また、CS(学校運営協議会制度)及び地域学校協働本部のコアメンバーとして事務手続きの効率化や、 学校・保護者・地域各種団体の活動の橋渡し、そして、「子ども達の笑顔の為に」地域が一つの目標 に向かって活動できる環境づくりに邁進中です。

#### 実践内容

私たち会瀬学青少年育成部では、地域の子育て支援・青少年育成事業を行っています。

活動目標、「『地域の子どもは地域で育てる』子育てこども時代を会瀬に住んでよかったと思える環境づくり」とし活動しています。活動の中心的事業でもある「元気っ子事業」につきまして、今回発表をさせていただきました。

2004年にスタートしました「おおせ元気っ子クラブ」も、今年で20年目の活動をしております。活動をしていく中で、保護者からの要望やニーズで改善を重ね、子どもたちにとって有意義な内容へと常にアップデートを続けています。



おおせ元気っ子クラブ結団式の様子



地域・保護者の方 学校支援ポランティア

学校運営協議会 ガイドブック <sup>令和4年度版</sup>

日立市立会瀬小学校 学校運営協議会

学校運営協議会ガイドブック

スタッフだけでは活動に限界がある為、地域各種団体や保護者の協働体制の整備を行うことでより一層の活動の充実化へとつながりました。

2017 年(平成 29 年)に日立市で最初のモデル校としてスタートした CS (学校運営協議会制度)の立ち上げに際し、コアメンバーとして参加し過去の経験やノウハウを活用しての地域学校協働本部の設置や、保護者も活動に参加しやすい環境づくりなどを仕掛ける。

また、事務手続き効率化の為の書類等のフォーマットの作成や、活動に関わる誰もが理解出来るよう「見える化」するための学校運営協議会ガイドブックを作成しました。

活動の成果としまして

- 1. 学校は事務効率化が図られ、多くの地域行事に参加することによりコミュニティ・スークルの基本理念でもある「地域に開かれた学校経営」へとつながりました。
- 2. 保護者も地域活動に参加しやすい環境となることで、従来の元気っ子事業の協働だけではなく、 PTA 役員・委員による「秋まつり子ども広場」でのブース出展、社協の「おもちゃライブラリー」 への通年参加。
  - また、おやじの会(おおせおやじネットワーク)の地域各種行事での活動サポートに参加するキッカケとなった。
- 3. 地域は各種団体の特徴を活かした活動ができ、また子どもたちと接する機会が増えることにより参加する楽しみへとつながった。

#### 質疑応答

- Q スタッフについて、30代~50代の現役世代のかかわりはどのようになっているのでしょうか。
- A PTA、子ども会、青年会の方と一緒に活動している中で、少しずつスタッフに加わってもらっていますが、世代交代は大変難しい状況です。また、女性スタッフをどのように参加してもらうかが課題となっています。
- Q 学校と地域をつなぐ上で、学校側の窓口になっているのはどなたでしょうか。
- A 教頭先生に学校側の窓口として、対応していただいております。打ち合わせ用のフォーマットがあり、事前に作成し、休み時間等に来校して打合せをさせていただいています。教頭先生からは、CS コーディネーターの方が人脈のノウハウをもっているので、負担感を感じたことはないとのお話をいただいております。

#### 当日の様子



発表の様子

#### <発表を終えての感想>

子どもたちの笑顔が地域を創る。一人一人の活動は小さいですが、子どもの笑顔のために、学校・保護者・地域が目標を同じとするとき、人の輪ができ、組織の輪とつながり、地域の輪となることを子どもたちから学ばせてもらっています。 今後の活動をどんな形でやっていくのか、スキルアップして楽しく活動していきます。

- ・地域ぐるみで子どもたちの教育に協力しているすばらしい取組で、 大変参考になりました。子どもたちの笑顔のために、地域の方や団体の活躍の場が増え、地域住民同士のネットワークが広がることで地域の活性化にもつながると思いました。
- システムが組織化されることで、学校と地域がつながりやすく、学校も活用しやすくなると思います。それにより先生方の負担も軽減できるのではないかと思いました。



会場の様子



# 真岡まちづくりプロジェクト 「まちをつくろう」



真岡市総合政策部プロジェクト推進課複合交流拠点整備係 係長 林 大輔 氏

#### はじめに

真岡まちづくりプロジェクト「まちをつくろう」(以下「まちつく」)は、2021年に20名の高校生、 大学生、地域の大人たちが、市の中心市街地の公共空間を活用する、市民の手によるまちづくり実験 を行うプロジェクトとして始まりました。

私が住みたい、住み続けたいと思うまちを、誰かが作ってくれると考えるのではなく、私が(私たちが)作っていくことを大切にしており、1人の百歩よりも、100人の一歩がまちを作っていくという「100人の一歩」を掲げて活動しています。

#### 実践内容

2021 年度 20 名に続いて、2022・2023 度は学生限定の募集を行い、それぞれ 43 名、36 名の延べ99 名が参加して、これまで24 回の社会実験に約 1 万 7,000 人にご来場、ご参加いただきました。その企画内容は多岐に渡り、市役所対岸にある五行川河川緑地を活用するマルシェ等の開催や、市役所近くの岡部記念館「金鈴荘」(文化財)での筝の演奏会といった企画だけでなく、市内の小中学生に、高校生と大学生が勉強を教える寺子屋の開催と、さらにそこから市役所近くのまちなか保健室で、地域の高齢者の方向けにスマホ相談会を企画しています。

また、2022 年度からは「100 人の一歩」をより実現できるように、「まちつく」の主催事業に留まらず、協働事業「まちつくクロス」も展開しています。このクロス事業も、これまで16回に及び、個人や地元企業によるマルシェ、読書会、ボードゲーム会等を開催しており、その企画から当日の運営のサポートも行っています。

これらの活動を通して、これまで寄附金や募金、マルシェ開催での収益金等で、2021 年度 11 万 8,165 円、2022 年度 26 万 7,733 円、2023 年度 51 万 137 円を得ています。収益金等は、市のまちづくり基金に積み立て「まちつく」活動費としています。



まちつくワークショップ



参加者のウィッシュポエム

高校生、大学生、地域の大人が、自分ごととして、地域の課題に向き合い、自分たちでまちを変えていく社会実験に取り組み、まちを動かすエネルギーとなっていることが、2022 年度のグッドデザイン賞と、地域づくり表彰(全国地域づくり推進協議会会長賞)において評価いただきました。

また、「まちつく」主催事業と、「まちつくクロス」事業、さらに地域おこし協力隊の活動による、 事業収益や寄附金を、真岡市まちづくり基金へ寄附し、次年度以降の活動資金として積み立てを行い、 将来的な自走に向けて取り組みを行っています。

ただ、真岡市にはまだまだたくさんの地域課題があります。たとえば、増え続ける空き家に対応していくには、その空き家問題を単体で見ることだけでは、解決に結び付きません。単一の課題に、単一の解決策を考えるよりは、複数の課題を解決する一手を考える必要があります。その課題発見と、解決策を考えていく過程に、いかに学生や地域の大人たちが関わることができるか、「まちつく」が今後も継続していくためには、関心をもつこと、知ろうとすることが大切だと考えています。「まち」や「人」に関心をもち、多くの人が関わっていくことで、本当の意味で、自分たちが住みたい、住み続けたいまちが作られていくのだと思います。

#### 質疑応答

- Q 社会教育のことで学生との絡みがあったかと思いますが、生涯学習課の方とはどのように連携していますか。
- A 箱ものをつくる際に、空き地利用や人を集めてまちづくりをしてほしいといったリクエストがあり、まちづくりの視点で活動してきました。そのため、これまで生涯学習課と連携してきたわけではなく、活動を続けているうちに、これはまさに社会教育だという気付きがありました。
- Q 自分が社会教育士をしていると思うところを聞かせてください。
- A 学生時代に社会教育を学びながら、フィールドワークで秋田県に行って地域を巡る活動をした時から、地域で学生が活動することに憧れがありました。真岡でも、同じように学生が地域に関わることができたら、地域の方が元気になると思っていたので、現在は、行政職員としての仕事だけでなく、地域の人としても自治会やお祭り、NPOなどで活動しています。

#### 当日の様子

#### <発表を終えての感想>



発表の様子

本日は貴重な機会をいただいてありがとうございました。他の 方々の日々の実践を聞いて、明日からさらに頑張りたいです。 このような機会をいただき、自分のやってきた内容を人にお伝 えすることで、自分の経験が改めて整理できたので、よい機会に なりました。

- 「街を活性化するためには、学生の感性を大切にすることも必要です。高校生・大学生を巻き込むのは難しいですが、それを実現していることが素晴らしいと思いました。・真岡市の高校生・大学生を巻き込む手法を学ばせていただきま
- ・ 具岡市の高校生・大学生を巻き込む手法を学はせていただきました。まちづくりを通して結果的には社会教育を進めている取組が素晴らしいです。



会場の様子

G

# 地域で自立して生活する力をつけるための

### 地域学校協働活動

神奈川県立あおば支援学校 地域学校協働活動推進員・学校運営協議会委員 佐々木 由紀 氏 武智 理惠 氏



#### はじめに

神奈川県立あおば支援学校は、横浜市青葉区に 2020 (令和2) 年4月にコミュニティ・スクールとして開校した特別支援学校です。肢体不自由部門・知的障害部門の小学部から高等部まで、212人が学んでいます。2021 (令和3) 年に地域学校協働本部「あおばまる(愛称)」が発足し、私たち地域学校協働活動推進員「地域コーディネーターズ」が着任しました。

- ① ネットワーク作り : 学校を卒業しても思いを分かち合える場・機会を提供する。
- ② 課題解決、資源開拓:地域でのサポーターや理解者を増やす。
- ③ 地域とのつながり:地域とのつながりを構築し、ともに生きる社会を目指す。
- 以上を3本の柱として地域コーディネーターがボランティアや地域資源を学校とつないでいます。

#### 実践内容

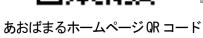
特別支援学校の子どもたちが目指す「自立」とは、可能な限り本人の意思決定のもとで、福祉サービスや地域の人々のサポートを受けて地域で生活することです。ただ、地域の方々は、特別支援学校がどんな所か、どんな子どもたちが通っているのか等について知っている人は少ないのが現状です。私たちコーディネーターズは、武智は社会教育、佐々木は福祉、と違ったフィールドで活動していました。それぞれの視点を融合させて「子どもたちの学びのために必要なこと」「卒業した後も本人・保護者が学校とつながれること」を念頭に置いて地域と学校をつないでいます。

コミュニティルームは、学校に関わるボランティア、通学支援員、給食支援員、保護者が集う場所です。地域コーディネーターズも、コミュニティルームにいます。下校後、先生たちが次々と来訪します。「こんな授業をしたい」「地域に出たいがよいところはないか?」「先輩保護者さんと交流したい」「福祉制度を知りたい」「子どもへの接し方を知りたい」といった先生、保護者、ボランティアたちの声に応えて、保護者交流会、勉強会等の企画、地域で活躍する団体の出張授業をアレンジしたり、時にはコーディネーターズが授業に参加したりすることもあります。

具体的な活動の様子は、あおばまるホームページをご覧ください。

https://sites.google.com/view/aoba-chiiki/







コミュニティルーム

- ・地域コーディネーターが学校運営協議会委員も兼ねることで、地域学校協働活動が円滑に行われている。
- ・学校に関わる地域の方たちとのネットワークが作られ、主体的に「じぶんごと」として子どもたち のことを考えてくれる仲間が増えている。
- ・PTA との協働により、保護者の負担軽減が図れ、保護者自身が「地域の人」として活動できる場となっている。
- ・地域コーディネーターのコーディネートにより、学校外での活動、学校所在地域との交流授業が実現している。
- ・県立学校のため(学区が広域のため)まだまだ支援学校を知らない人が多いので、活動範囲を拡げ、 仲間を増やす必要がある。
- ・今後増える卒業生・保護者の受け皿、組織固めの必要性がある。
- 更なるコーディネーターズの発掘!

#### 質疑応答

- Q コーディネーターはどのようにしたら見つかりますか。また、向いている人の特徴があれば教えてください。
- A 活動の中で、次のコーディネーターとして一緒に活動していくことができる仲間を探すように 心掛けています。コーディネーターは、学校と地域に対してフラットな関係を築くことができる方 が向いているのではないかと考えます。
- Q 学区が全県である盲学校では、「地域」という視点でどのような点を工夫すればよいですか。
- A 地域課題や人材の掘り起こし等、学区を丁寧に調査することが大切だと思います。工夫としては、地域の人に学校へ足を運んでもらい、学校が大人の学ぶ場になるような活動を行いました。

<発表を終えての感想>

#### 当日の様子



#### もしたの発力であ

私たちの強みである、二人の地域コーディネーターが地域と学校をつなぐ地域学校協働活動についてお伝えすることができてよかったです。これからも、二人体制で生まれる相乗効果を活かしながら、様々な人と出会い、広いネットワークをつくっていきたいです。また、地域の人の思いをつなぐのと同時に、優先順位や内容を調整できる窓口になりたいと思います。

発表の様子

- •コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について 模索しているところでしたが、学校と地域に対してフラットに関 われる人が、推進員に向いているのではという意見に納得しまし た。また、二人体制での活動は理想的であると感じました。
- ・支援を受け入れる力をつけることも「自立」であるという考え方が 大変参考になりました。また、卒業後の関わりも、持続可能な地域 学校協働本部の仕組みとして大変参考になりました。



会場の様子



# 子どもの居場所から始まる 「つながりと笑顔」のまちづくり



福島市子ども食堂 NET 代表 江藤 大裕 氏

#### はじめに

私たちは、子ども食堂よしいだキッチンという子どもたちの居場所を2018年から運営しています。 地域の子どもたちが集い、子どもたちを支えるつながりのプラットフォームに一歩ずつ近づいてい く中、当時、市内の子ども食堂は少なく3か所ほどでした。孤食対策や貧困対策の場、食育の場、地 域の居場所としての機能もあり、多様な子ども食堂の形がある中で、それぞれの特徴・多様性を認め 合い、子どもたち一人一人が居場所を選べるようになっていく為に2020年6月に福島市子ども食堂 NETを立ち上げました。

#### 実践内容

福島市子ども食堂 NET の役割は、①子ども食堂の立ち上げ伴走支援、②子ども食堂の運営相談、③学生ボランティアのマッチングや企業連携の窓口、④子ども食堂の啓発・講演活動などに取り組んでおり、2023 年 11 月現在で加盟団体は 44 団体にもなりました。子ども食堂を周知するために福島市内の全小中学校に配布するマップの製作・配布(約22,000部)、ホームページや SNS でも定期的に発信を行っています。また企業の皆さんにも多くのご協力をいただき、フードドライブやフードバンクの活動などにも注力しています。

福島市子ども食堂 NET は行政・地域・学校・家庭と丁寧に連携し、また支援物資や情報を取りまとめ、必要としているところへ情報や物資を届けることを行っています。子ども食堂はもちろんのことフリースクールや無料塾、母子支援施設や児童養護施設とも連携して、寄付を受けた食材などの情報を共有し、必要なときに必要なものが子どもたちに届くような体制を市内全域で進めています。2020年12月には当時の加盟団体全員で3か月間話し合い、子ども食堂の目的や地域で果たす役割、目指すべき未来を徹底的に話し合い、独自のSDGs 宣言も行ったのも画期的でした。

ひとつひとつの子ども食堂においても同様でボランティアスタッフ、寄付者、学校との連携、民生 委員・児童委員の協力など地域をまるごと巻き込んで、子ども達を支える仕組みを地域と共に構築し ています。



企業と連携しフードドライブを実施している様子



子ども食堂よしいだキッチン開催時の様子

新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた 2020 年春、2018 年に公民館連携でスタートした子ども食堂よしいだキッチンも当然、岐路に立たされました。「中止にすべきじゃないかな」とそんな想いがよぎるなか、地域のみんなで開催可否を話し合って出た答えは・・・、満場一致で「今こそ、子どもの居場所が必要でしょ!」でした。みんな大変だけど不安だけど、つながりで子どもたちを支えよう!そんな想いがつまった子ども食堂になった瞬間でした。例えばここに大きな石があったとします。子どもの前にその石があれば危ないから除けてあげたくなる。それもとっても大切なことです。ただ石を永遠に除け続けることはできないし、改めて子ども食堂や地域の大人の役割を考えたときに、子どもが躓いた石の向こう側にふかふかのじゅうたんを敷いてあげることが、我々の役割かもしれません。チャレンジを応援してあげられること、失敗できる環境があること、絶対大丈夫だよと声をかけてあげる、信じてあげる、そんな役割が子ども食堂にはあるのかもしれないなと常々思っています。子どもたちのために何かできることはないかなと心が動いた人たちが集い支援する・支援される枠を大きく超えたごちゃまぜの居場所になっていて、一人一人に役割と出番があります。だからこそ、しっかりとつながるのだと思います。そして、そのつながりこそがいざというときに子どもたちを支え、笑顔で彩られたまちが誕生することにつながっていくと信じています!

#### 質疑応答

- Q 企業との連携をたくさんしていますが、最初はどのようにつながっていったのでしょうか。
- A 連携することで企業にどんなメリットがあるのか、SDGs など我々がどんな価値を提供できるのかを伝えていくことで、つながりが増えたり、情報を提供していただけたりするようになった。HP や SNS などで拡散するなど上手にメディアにつなげることが大切です。
- Q 子ども食堂に行かせるのに抵抗がある保護者がいる。どうすれば保護者の理解を得ることができたり、子どもが行きやすくなったりするのでしょうか。
- A 貧困対策以外にも楽しいことをやっていることを知らせるのが大切。そうしていると口コミで 広がっていく。間口は広くしておくことで、一定数ある SOS を拾うことができる。そのために、食 堂のマップは市内全部の小中学生に配っています。また、いろいろな地域に食堂を作ることで行き やすくなります。

#### 当日の様子



発表の様子

#### <発表を終えての感想>

各地域で一生懸命活動されている方はたくさんいらっしゃいます。ただ、まだまだ子ども食堂があまり知られていません。私たちも日々奮闘しながら活動しています。一人一人の力にはパワーがあり、微力ですが無力ではありません。地域や企業、学校を巻き込み、みんなで子どもたちの育ちをしっかり支えていきたいです。 茨城や関東のみなさんともつながって、一致団結して子どもたちを守っていきたいと思います。

- 多くの人に支えられて子どもたちは育っていることが再認識できました。今後子ども食堂に対する地域の一層の理解が必要だと思いました。
- つながりをもつことの大切さと助け合える地域や仲間を増やし、 横の連携をとることが大切だと思いました。



会場の様子

Ι

# 地域と学校をつなぐコミュニティ活動

コミュニティ協議会が果たす役割と実践事例

神栖四中学区地域コミュニティ協議会 会長 樋口 義則 氏



#### はじめに

生活様式や生活意識の多様化によって、隣近所のつながりや地域の連帯が希薄化したことで、環境、防犯、防災、交通災害など日常の様々な問題が発生しています。こうした地域の身近な問題や課題に対処していくには住民相互が理解し合い、自らの問題として自主的に取り組み、解決することが求められています。協議会の目的は地域のつながりを醸成し、助け合いのできるまちづくりを目指すもので、特に東日本大震災を契機に、助け合いのできるまちづくりの重要性が強く認識されたことから、2013年に地域コミュニティ協議会を設立、以来様々な問題を解決し住みよいまちづくり活動に取り組んできました。

#### 実践内容

「神栖四中学区地域コミュニティ協議会」は、協議会活動に賛同する個人や既存の各種団体等で構成する役員会、環境部会、防犯防災部会、広報交流部会、文化体育部会を組織して、地域の諸課題に対処するために様々な活動に取り組んでいます。各部会は役員会・総会で決定した年間活動計画に基づいて、①~⑤に示す活動の具体的な計画を立案・実行を行います。実行に当たっては協議会のメンバー全体や支援してくれるサポーターが協力して活動に当たります。また学校(教職員、生徒)も地域コミュニティの一員として協議会と連携して活動に参加しています。

- ① 環境部会:学校清掃や春・秋の2回フラワーロードの花植えなどの環境に関わる活動を行います。
- ② 防犯防災部会:防災訓練や資機材取扱い訓練を年1回実施。通学路の安全点検や毎日の登下校の 見守りの他に、毎月第3月曜日を朝のあいさつ運動、見守り活動の日と定めて活動します。
- ③ 広報交流部会:地域交流、世代間交流イベントを春・夏の2回開催。また協議会の情報誌として「コミ協だより」を年2回発行して、協議会活動についての情報発信をしています。
- ② 文化体育部会:コミュニティセンターを利用する団体や地域の住民の生涯学習の場として、毎年芸能発表会やスポーツ大会、輪投げ大会などの計画・実行など運営を支援します。
- (5) **役員会**:講演会の開催、夏休みラジオ体操、学校交通安全標語コンクールなどを実施します。



朝のあいさつ運動の様子



夏の交流イベントお楽しみ会

協議会を設立したことよって行政区や学校、子ども会などに協議会への協力や支援体制の仕組みを構築したことで、共通の認識を持つ人々とのつながりができ地域の問題や課題を話し合える機会と場が生まれました。地域の枠を超えて自主的に課題解決に取り組む姿勢や力もつきました。また協議会(地域)と学校が連携することで、児童生徒の健全育成にも大きな役割を果たしています。

協議会が実施する幅広い活動によって、人と人、地域と学校がつながる機会は広がっており、賛同者や理解者も徐々ではあるが増えています。協議会の目的である地域のつながりを醸成し、助け合いのできるまちづくり活動は、コミュニティ協議会によって着実に進んでいるものと実感します。

今後の課題としては、協議会の考えに賛同する団体や個人によって組織・運営していますが、まだまだ協議会の意義や重要性が十分に理解されず、協力が得られないという実情があります。コミュニティを醸成するためにはまだまだ盤石とはいえません。そのためには一人でも多くの理解者、協力者を増やし、人材を発掘して持続可能な協議会組織体制の確立につなげていく必要があります。

地域社会が変化していく中にあっても、基本理念である「みんなで力をあわせて、豊かな文化と心を育み、住みよい誇れるまちづくり」を目指して、これからも活動を続けていきたいと思います。

#### 質疑応答

- Q コミュニティ協議会の事業に、教職員やPTAはどのように関わっていますか。
- A コミュニティ協議会を構成する各部会に子ども会やPTAの代表が所属しています。イベント を実施するときには、各団体に協力していただいています。また、大きなイベントを実施する時に は、イベントの主旨を理解していただき、教職員の負担も考慮しながら参加していただいています。
- Q コミュニティ・スクールと同じような活動だと思いますが、コミュニティ・スクールになっていないのはなぜですか。
- A コミュニティ協議会は、コミュニティ・スクールを目指して活動してきたわけではなく、我々の目指してきた姿が、たまたまコミュニティ・スクールで行っている地域学校協働活動や地域学校協働本部の形に近かったのだと思います。

#### 当日の様子

#### <発表を終えての感想>



発表の様子

今日のような発表の機会をいただき、コミュニティ協議会の活動をたくさんの人に知っていただけたことに感謝しています。私たちの活動は学校と地域が連携した「1つの形」として、参考にしていただければ嬉しいです。また、他の事例発表を聞いたり、自分の発表にいろいろな人が質問をしてくれたりしたことで、自分たちの活動を振り返ることができ、これからの活動にも活かしていきたいと思います。ありがとうございます。

- 理念や目標がしっかりしていることが素晴らしいと思いました。ここで育った子どもたちは心豊かになり、地域のぬくもりを忘れない人になると思います。
- ・コミュニティ・スクールに関心があり、これまで全国のいろいろな場所の活動を見てきましたが、身近にこんな素晴らしい取組をしている地域があることを知りませんでした。取組の素晴らしさに感動しました。
- ・神栖四中学区地域コミュニティ協議会の活動を参考に地域づくりに取り組んでいきたいと思います。



会場の様子

## クロージング

茨城県生涯学習・社会教育研究会 副会長 池田 馨 茨城県社会教育委員連絡協議会 会長 稲葉 里子

#### 【4年ぶりに対面で開催した交流会】

第9回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会も、無事に クロージングを迎えることができました。

第6回から昨年の第8回までの3年間は、コロナの影響を受けて 対面で実施ができないという状況が続いておりました。実行委員会 で議論を重ね、対応策として対面なしのオンラインのみで実施を させていただきました。



今回は、約4年ぶりに対面での開催とさせていただいたところ ですが、やっぱり顔と顔とを合わせて議論するというのはいいものだなと感じたところ です。皆様いかがでしたでしょうか。

#### 【オンラインを併用した意義】

初めての試みとしまして、対面だけでなくオンラインも併用させていただきましたが、 茨城県内はもちろんのこと、茨城県外からもたくさんの方々にご参加いただきました。

コロナ禍で実施したオンライン開催の成果として、今回の対面とオンラインの併用に つながったのではないかと感じています。

4年ぶりの対面開催、また今年7月にオープンした新しい会場ということで、不安要 素も少なくありませんでしたが、本日のご参加いただきました皆様の様子を拝見しまし て、大会実行委員の努力が報われたように思います。

来年の全国大会に向けて、さらに良いものにしていけるよう準備を進めていきたいと 思います。

#### 【来年度の全国大会に向けて】

私は、第1回茨城大学で開催されました本交流会に結城市から参 加し、社会教育委員としての活動を充実させることができました。 今回の交流会においても、各地で展開されている実践の報告や、協 議の様子を拝見し元気をいただきました。ご参加くださいました皆 様に感謝申し上げます。

来年度の交流会は、節目となる 10 回目のとなり、全国社会教育 研究大会と合同で開催します。テーマを「彰往考来(しょうおう



こうらい)~ 人をつくり 人をつなぎ 地域をつくる 未来の社会教育~」とし、特に 子どもの成長に焦点を当てた構成とします。

社会教育は、人々を幸せにするものであると考えます。皆様と協力しながら、誰一人取 り残さない地域社会を築いていきたいと思います。来年の全国大会は、その成果を発表 し合えるものになると幸いです。

### 見えないものを見る:社会教育賛歌にかえて

人は「見えないものを見る」生き物だ 五感は決して優れたセンサーではない 紫外線も赤外線も見えない眼は、数多の事実をないものとする 高周波の音は聞こえはしない 犬のような臭覚だってもってはいないのだ だから、不十分な五感を補う「第6感」=意識を手に入れた生き物だ

「見えないものを見る」ために「2つの方法」を考えた 科学とファンタジー 見えないウィルスを見るために、顕微鏡を創り上げた 顕微鏡では見えない「幸せ」を見るために、多くの神々を創り上げた こうして、人は「宇宙」を発見し、「あの世」を創り上げた

科学は進化を繰り返し、数多の枝分かれを繰り返し続けている加速度的広がり、進化した科学は、市民の暮らしから離れ続けているわからない言葉が乱舞し、「見えるものまで見えない」ように…「幸せのファンタジー」もまた分岐を繰り返し、不幸せの顔を見せている「サンタクロースはいないけどいる」のだが…

社会教育は、「見えないものを見る」ために突き進んだ2つの方法を 市民のものに取り戻す営為なのかもしれない 人の幸せのために作り上げた科学とファンタジーを 市民のものに取り戻す営為に違いない

私たちは、「幸せ」を生み出すために、社会教育の実践交流を実現し続ける コロナのパンディミックにも、歩みを止めはしなかった それは、幸せづくり最前線だからだ それは、幸せづくり交差点にほかならない

今日もまた、「見えないものを見る」ために、仲間たちは行動しているのだろう 私たちが人間である限り、相互に確かめ合い、「共感」し続けるだろう 「人のしあわせ」はそうして作られ続けたのだから… 来年もまた、会いたいと願う

### 第9回大会を終えて

~協力委員・実行委員から~

第9回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会では、協力委員という立場で当日の配信関係をメインで担当させていただきました。事前準備等には直接関わることはありませんでしたが、主催者や実行委員の皆様のご尽力もあり、実践研究交流会が盛大に開催されたことにうれしく思います。開催方法において、会場での集合参加者とオンライン参加者の同時(ハイフレックス方式)開催が実施されたため、遠方からでも実践研究交流会へ参加することが可能となり、今回のテーマにもあるように、「誰一人として取り残さない社会を目指して」が叶う形となったと思います。これまで以上に広域のネットワークづくりが構築されたのではないでしょうか。

また、事例発表におかれましても、どの事例も「学びを通しての地域活性化」に向けた取組があり、事例を通したグループでの話合いも充実した様子が伺えました。コロナ禍で一時は開催方法や集合することへの困難さという壁が立ち塞がろうとしていましたが、主催者や実行委員の「学びを続ける」という参加者同士が交流できる場の重要性を改めて感じることができました。社会教育に携わる立場として、その視点を常に意識することの大切さを再認識することができました。

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 専門調査員 新木 圭彦

交流会はやはり対面!久しぶりに参加者の熱を感じた1日でした。

10年前に初めて福岡で開催されている中国・四国・九州地区交流会に参加させていただきました。今年度第40回大会を迎え、当時すでに30回開催と歴史のある生涯教育実践研究交流会の熱気に圧倒されたことを今でも覚えています。

国社研からの支援をいただき、茨城県でこの交流会を立ち上げ、第 I 回大会、第 2 回大会に関わらせていただきました。中国・四国・九州地区のあの熱気を関東でもという思いで関係者と力を合わせて開催に漕ぎ着けました。

しかし、私たちはその後のコロナ禍で生活様式が一変する中、人と人が距離を取ったり、子どもたちの体験活動が激減したりするなど、これまで経験したことがない、まさに予想だにしない状況を目の当たりにしてきました。

そのような中でも交流会実行委員会は、オンライン開催という手段で本交流会を継続開催してきました。これこそが茨城県の社会教育の底力だと思います。県内様々な場所で活躍する社会教育主事を始め、生涯学習社会教育に携わる方々の力なくしてこの交流会は成立しません。そして、茨城県において継続開催することで、茨城に行けば他県の方々とたくさんの情報共有ができる、そんなプラットフォームの役割を担うことが我々の使命だと思っています。

茨城県水戸生涯学習センター 次長兼企画振興課長 鈴木 昭博

4年ぶりに対面での開催となった「第9回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交 流会」が盛大に行われたこと、まずは嬉しく思います。

今回、私は運営副部会長として交流会に関わらせていただきましたが、ハイフレックス型での開催は初の試みでもあり、手探り状態でのスタートでした。しかし、事務局とともに綿密な打合せを繰り返し行い、この交流会を以前のように盛り上げていきたいという実行委員の強い思いもあり、茨城県の生涯学習・社会教育が今後ますます発展していく可能性を感じた交流会となりました。各分科会においても、大会テーマである「ウェルビーイングの実現に向けたこれからの生涯学習・社会教育 ~誰一人として取り残さない社会を目指して~」に相応しい実践発表がなされ、「未来ある子どもたちに対して、自分たちに何ができるか」ということを私自身、改めて考える契機をいただきました。ウェルビーイングの向上は、第4期教育振興基本計画にも記載されており、今後、持続性や社会のつながりも含め、社会教育が担う分野は幅広く、大きくなっていくものと感じています。私だけでなく、この交流会が参加された皆様の道標となってほしいと思います。

茨城県水戸教育事務所 主任社会教育主事 木村 弘幸

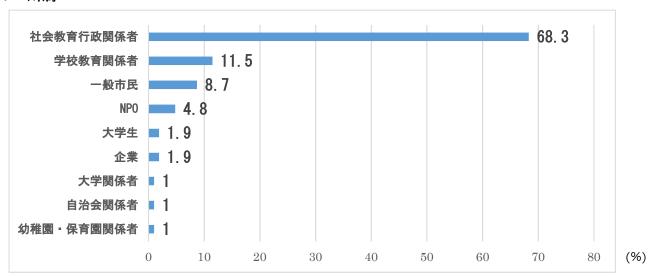
第9回の実践研究交流会では「子どもの学び」を中心課題として、多様な立場からの意見やアイディアの共有が行われました。参加者の方々は、教育現場で直面する様々な問題に対して、それぞれの独自の視点をもって取り組んでいらっしゃることが分かりました。子どもの個性や学び方の多様性を尊重し、それぞれの子どもに最適な教育を提供するために、個々の実践事例やノウハウの共有が重要であることが改めて再確認することができました。また、今回の交流会では、同時双方向通信と対面式を採用して実施されたことで、地理的な制約を超えて多くの参加者が交流に参加できました。インターネットを通じてリアルタイムでセッションに参加し、意見交換や情報共有ができたことや対面での視覚や体感を通じて、より深い理解や共感を生み出すことなど実りのある交流会だったと感じております。

最後になりましたが、本交流会の実施にご尽力された方々、そして参加してくださった 方々に心より感謝申し上げます。今後も生涯学習と社会教育の普及・推進に私自身努めて まいりますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

水戸市教育委員会生涯学習課 社会教育主事 石井 浩司

# アンケート結果

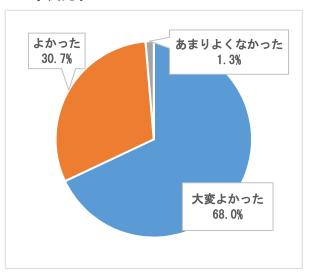
#### I 所属



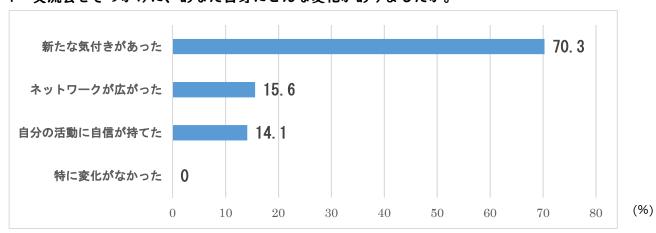
#### 2 年代

# 30歳代 3.8% 20歳代 1.9% 40歳代 34.0%

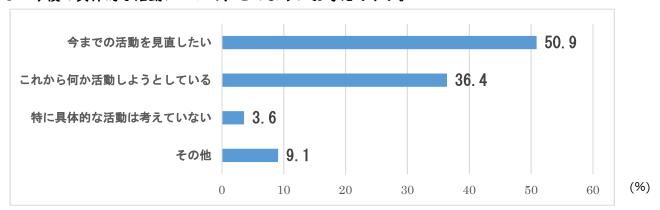
#### 3 事例発表



#### 4 交流会をきっかけに、あなた自身にどんな変化がありましたか。



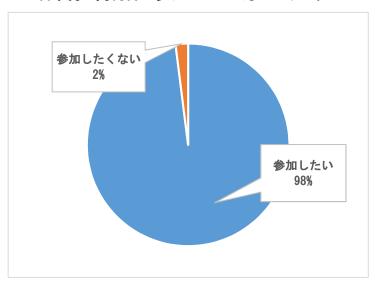
#### 5 今後の具体的な活動について、どのようにお考えですか。



#### その他(記述)

- ・現在教員志望なので、将来教師として働く際に、今回得たことを活かしていきたい。
- ・今後の取り組みについて、見通しをもつことができた。
- ・機会があれば活動したいと思った。
- ・自身が担当している事業に反映させたい。 など

#### 6 次年度の交流会に参加したいと思いますか。



#### 7 参加者の方からのご意見・ご感想

- ・活動のヒントを得たり、振り返ったりすることができる機会となった。
- ・自分の市町村では行っていない取組を知ることができ、視野が広がった。
- ・グループ協議は最初不安だったが、他市の状況を聞くことができ大変参考になった。
- ・皆の行動力が素晴らしく、エネルギーをもらえた気がする。
- ・更に新たな情報を得て、新たな視点や気付きを自身の今後に生かしたい。
- ・この交流会は、様々な立場や分野の方が集まり交流できる貴重な機会だと思う。
- ・このような交流会があったことを知らなかった。他地域での活動を参考に取り組みたい。
- ・分科会では、となりの声と重なり聞きにくかった。

- ・地域で活躍されている方と小学生の活動をつなぐ仕事をしているが、行き詰ることが多い。このような 好事例を情報として得て、業務の見直しにつなげていきたいと思う。
- ・やはり対面がベストだと思うが、オンラインのチャットから質問をひろい協議を盛り上げていたのは 良かったと思う。「新しい形もいいな」と感じた。
- ・来年は対面で参加したい。
- ・時間が重なり、他の実践発表でも拝聴したいものがあった。次回は他事例も拝聴できる伺える仕組みが あると良い。
- ・会場が協議をしている間、ブレイクアウトルームを組んでいただくのも一つかと。はじめて参加した が、来年も参加したいと思う。
- ・発表 20 分、グループワーク 10 分はちょっと短い気がする。
- ・オンライン参加で、途中、音声等が途切れることがあった。次回、叶うならば現地参加したい。
- ・コロナ収束してきたことで、社会教育活動がまた、活発に行われるようになってきたことを実感した。
- ・一般市民の生涯学習テーマが少なくなり残念。定年引き上げ、女性の労働増加などにより危機的な状況。各地で工夫している事例を知りたい。
- ・事例をそのまま真似しても、自分のまちには馴染まないことが多いが、取組む方々の姿勢、考え方を学 ぶことにより、改善につながる。
- ・毎年気付きがあり、楽しみにしている。
- ・自分で分科会を選んで参加できるところがとても良い。
- ・茨城県に居ながらにして、県内だけでなく他県の状況も学ぶことができ、交流できる機会はなかなかな く、本当にありがたいことだと思う。
- ・事例発表が身近な地域の方ばかりで、想像しやすいところがよかった。
- ・常に知見を更新、人とのつながりを広げることが、今後の活動につなげることができる。
- ・オンラインで参加したが、音声が聞き取りにくい回があった。可能であれば現地参加してみたい。また、 オンラインだとチャット許可されておらずブレイクアウトルームの設定もなかったため、待ち時間で 講演のお話の共有が誰ともできず残念だった。

# 座談会を開催しました!

#### テーマ 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会のこれから

#### 【参加者】

茨城県生涯学習・社会教育研修会 会長長谷川幸介 氏茨城県生涯学習・社会教育研修会 副会長池田 馨 氏茨城県生涯学習・社会教育研修会 事務局長大月 光司 氏茨城県水戸生涯学習センター 次長兼企画振興課長鈴木 昭博 氏国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 専門調査員新木 圭彦 氏群馬県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事知久 鉄平 氏水戸市立吉沢小学校 教諭國府田 大 氏

#### 【進行】

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 社会教育主事 菅谷 政之

#### 【視聴方法】※約1時間27分の動画です

○茨城県生涯学習情報提供システム「茨城の生涯学習」 https://www.gakusyu.pref.ibaraki.jp/

○関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会 YouTube https://youtu.be/Sv1WU81MSB4

○関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会 facebook https://www.facebook.com/kankenko27/



#### 事業の実施体制

#### 【主 管】

関東近県生涯学習·社会教育 実践研究交流会実行委員会



#### 【共 催】

- ○茨城県教育委員会 ○茨城県生涯学習
  - ·社会教育研究会

#### 【後 援】

- ·福島県教育委員会
- ·栃木県教育委員会
- ·群馬県教育委員会
- ·埼玉県教育委員会
- ·千葉県教育委員会
- ・神奈川県教育委員会
- · 茨城県青少年育成協会

#### 【協 賛】

- ・NPO 法人ひと・まちねっとわーく
- ・NPO 法人インパクト
- ·NPO 法人日本スポーツ振興協会
- ·(公財) 茨城県教育財団
- ·(公財) 日本教育公務員弘済会茨城支部

#### 【協 力】

- ·国立教育政策研究所
- ·茨城県教育庁社会教育主事会
- · 茨城県市町村配置社会教育主事会

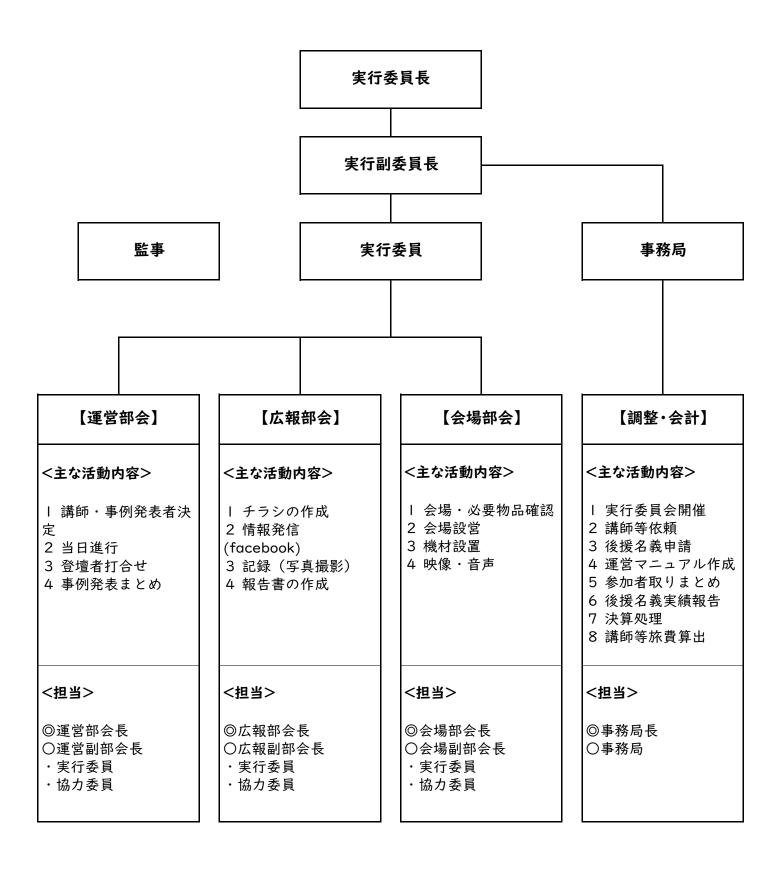
# 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会



#### 【参加者】

都道府県、市区町村教委の社会教育行政関係者、首長部局の関係職員、NPO、企業、関係団体・機関、大学、学校関係者、自治会、その他学びを通じた地域の課題解決に関心がある者であれば誰でも参加可能

### 運営組織・活動内容



# **Design to Next**



お申し込みは こちらから!

# ウェルビーイングの実現に向けたこれからの生涯学習・社会教育

~誰一人として取り残さない社会を目指して~

開催日 令和5年10月28日[土]

会場 水戸市民会館 参加費 無料

対象者 地域の課題解決に関心がある方

参加方法 会場で参加またはオンラインで参加 ※軽装でご参加ください。

共催 茨城県教育委員会、茨城大学、茨城県生涯学習・社会教育研究会

主管 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会

協賛 NPO法人ひと・まちねっとわーく、NPO法人インパクト NPO法人日本スポーツ振興協会、(公財)茨城県教育財団

(公財)日本教育公務員弘済会茨城支部

後援 福島県教育委員会、栃木県教育委員会、群馬県教育委員会、埼玉県教育委員会 千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、茨城県青少年育成協会

協力 国立教育政<mark>策研究</mark>所、茨城県教育庁社会教育主事会 茨城県市町村配置社会教育主事会 第9回

実践研究交流会生涯学習・社会教育



令和5年、生涯学習・社会教育を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。「コロナ後の 社会づくり」、「ロシアによるウクライナ侵略」など、目まぐるしいほどの社会転換です。

「何を、どう」学べばいいのかという課題が、社会教育分野に問いかけられているに違い ありません。

本年度の第9回大会は、令和6年に水戸市で開かれる「第66回全国社会教育研究大会 茨城大会」のプレ大会として実施されることになりました。したがって、大会テーマを「ウェ ルビーイングの実現に向けたこれからの生涯学習・社会教育」として、「子どもをめぐる実践」

を中心課題に据えました。大きな社会転換は「子どもの社会化」にとって重大な影響を与えていると考えられるからです。

また、今回は新設された水戸市民会館にて行うことになりました。新しい会場で、新しい課題と格闘し続ける 多数の実践報告を中心に、私たちの幸せ課題の「今」を確かめ合いたいと思います。

> 第9回関東近県生涯学習·社会教育実践研究交流会 実行委員長 茨城大学 名誉教授 **菊 池 龍 三 幹**

# 社会教育実践には、その一つひとつに物語があります。

- あなたも、その物語に入り込んでみませんか
- あなたも、あなたの物語を考えてみませんか
- あなたとみんなの「幸せ物語」を創ってみませんか

現代社会は大きく変化し続けています。だから、「学びのカタチ」も大きく変わり続けています。今回の交流会は、この大きな変化にさらされ続けている「子どもの学び」を中心課題に設定しました。「コロナパンディミックは、子どもたちの『友だちのつくり方』まで影響を与えている」と指摘されています。今、私たちは、AI社会やグローバル社会に生きる子ども世代に必要な「学びのカタチ」を模索し始めていると考えます。学校・地域・家庭など多様な場で、社会教育実践が「どのような学びのカタチ」に挑戦しているのかを交流してみることにしました。参加する皆さんの力で、心も装いも普段着で、悩み全開、意見交換全開の実践交流会にしたいと思います。



#### 【水戸市民会館へのアクセス】

- ●水戸駅からバスをご利用の方 北口(4~7番のりば)から約5分 「泉町一丁目」下車、徒歩1分
- ●お車でお越しの方 会場に駐車場はありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。
- ●徒歩でお越しの方 水戸駅北口から徒歩約20分

詳細は 水戸市民会館の ホームページを ご覧ください。



https://www.mito-hall.jp/access/

### 事例発表

●受付 12:00~12:30 ●オープニング 12:30~13:00

#### 事例発表❶ 13:20~14:10

△ 【茨 城 県】 学校を核とした地域づくりをめざす

「住みよい堅倉地区をつくる会」

~学校・保護者・地域と連携した防災教育~

住みよい堅倉地区をつくる会 会長 磯辺 寛氏

事務局広報 郡司恵美子 氏

B【群馬県】居場所つくりから考える、

みんなで社会で子どもを支える \*協育、取り組みについて

特定非営利活動法人 ターサ・エデュケーション 代表理事 市村 均光 氏

■ 【茨城県】ファシリテーターのスキルを活かした事業展開と工夫について ~家庭教育学級、子育て支援活動の取組を通して~

特定非営利活動法人 ネットワークサポート親楽 理事 大谷 孝子 氏

理事 竹村 拡子 氏

#### 事例発表2 14:20~15:10

□【茨城県】大学生や高校生による

オンラインでの不登校支援とコーディネート

For Everyone Study 代表 植竹 智央氏

■【茨城県】子どもの笑顔が地域を創る~「元気っ子事業」を通しての \*人の輪、\*組織の輪、\*地域の和、の確立を目指して~

日立市会瀬学区コミュニティ推進会 青少年育成部副部長/会瀬小CS副会長 **豊田 義幸**氏 副会長・事務局長/会瀬小CSコーディネーター **柴田 百恵**氏

■【栃木県】真岡まちづくりプロジェクト「まちをつくろう」について

真岡市総合政策部プロジェクト推進課複合交流拠点整備係 係長 林 大輔 氏

#### 事例発表③ 15:20~16:10

🖸 【 神奈川県 】 地域で自立して生活する力をつけるための地域学校協働活動

神奈川県立あおば支援学校 地域学校協働活動推進員 佐々木由紀 氏

地域学校協働活動推進員 武智 理惠 氏

■【福島県】子どもの居場所から始まる「つながりと笑顔」のまちづくり

福島市子ども食堂NET 代表 江藤 大裕 氏

■【茨城県】地域と学校をつなぐコミュニティ活動~コミュニティ協議会が果たす役割と実践事例~

神栖四中学区地域コミュニティ協議会 会長 樋口 義則氏

●クロージング 16:20~16:35

### 申込方法

### **①**表紙のフォーム(QRコード)から申し込む **②**FAXで申し込む

#### 第9回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会【FAX申込書】

FAX 029-301-5339 宛先

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会事務局 (茨城県教育庁総務企画部生涯学習課内)宛

※原則、お一人ずつ申し込みが必要です。団体での申し込みを希望される場合は、ご相談ください。

ふりがな				
氏 名				
所属			役 職	
連絡先	TEL			
建和元	E-mail	※オンライン参加を希望する方は必須		

#### 参加方法及び参加を希望される事例の英数字に○をつけてください。※裏面の事例概要をご参照ください。

内容	期日	参加方法	申込締切
事例発表	令和5年	<ol> <li>会場で参加(定員200名)</li> <li>オンラインで参加(定員300名)</li> <li>※Zoomによる同時双方向通信</li> <li>参加希望</li> </ol>	令和5年
争例无衣	10月28日(土)	① 13:20~14:10 A B C ② 14:20~15:10 D E F ③ 15:20~16:10 G H I	10月20日(金)
		※①はA・B・C、②はD・E・F、③はG・H・I から選択。	

<sup>※</sup>申込者が定員を超えた場合は先着順となります。

- ※オンライン参加を希望された方に必要な情報は、申込書記載のE-mailに10月24日(火)を目途にご連絡いたします。
- ※「@pref.ibaraki.lg.jp」からのメールが受信できるようドメイン指定を行ってください。

#### 【参加者の皆様へ】

- 水戸市民会館に駐車場はありません。当日はできる限り公共交通機関をご利用ください。
- 個人情報は、本交流会に関すること以外の目的では使用いたしません。
- ・交流会の様子(写真、動画、アンケート内容等)をウェブサイト、オンライン配信、 SNSや報告書等で使用することをご了承ください。
- 今後、新型コロナウイルス感染症や自然災害等の影響により、大会内容等を変更する 可能性があります。(変更した際には、右記ウェブサイト等でお知らせいたします。)

最新情報は、以下QRコードより ご覧ください。





茨城の生涯学習HP

フェイスブック

### 参加者の内訳

### ■参加者数一覧 [都道府県別]

都道府県	会場で参加	オンラインで参加	合計 (人)
岩手県	0	I	1
秋田県	0	I	I
福島県	2	3	5
茨城県	154	51	205
栃木県	4	3	7
群馬県	4	6	10
埼玉県	2	3	5
千葉県	0	4	4
東京都	3	9	12
神奈川県	2	3	5
新潟県	0	I	I
長野県	1	0	1
滋賀県	0	2	2
鳥取県	0	I	1
岡山県	0	I	I
沖縄県	0	I	I
合計(16都県)	172	90	262

#### 【参考】

	I 日目	2日目	合計 (人)
第   回大会	314	168	482
第2回大会	331	184	515
第3回大会	334	203	537
第4回大会	450	186	636
第5回大会	301	156	457
第6回大会 (オンライン)	230	227	457
第 <b>7</b> 回大会 (オンライン)	443 (オンデマンド配信)	219 (オンライン配信)	662
<ul><li>第8回大会 【全体会】オンデマンド配信</li><li>(オンライン) 【分科会】オンライン配信、オンデマ</li></ul>			1,017

<sup>※</sup>第6回大会、第7回大会は、2部制で実施。

<sup>※</sup>第8回大会は、「第44回全国公民館研究集会」と合同開催。

オンデマンド配信期間が年度またぎのため、参加者数は記録集申込冊数で記載。

### 実行委員会名簿

No	役 職	氏 名	組織・職名	担当部会	備考
1	実行委員長	菊池 龍三郎	茨城県生涯学習・社会教育研究会 顧問(茨城大学名誉教授)	-	
2		長谷川 幸介	茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長	広報部会長	
3	副実行委員長	池田 馨	茨城県生涯学習・社会教育研究会 副会長(NPO法人ひと・まちねっとわーく理事長)	運営部会長	
4	町大门女貝攻	谷萩 紀行	茨城県社会教育委員連絡協議会 副会長	会場部会長	
5		中村 珠美	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 課長	総務担当	
6		松橋 義樹	常磐大学人間科学部教育学科 助教	広報部会	
7		石井 浩司	水戸市教育委員会生涯学習課 社会教育主事	会場部会	
8	実行委員	木村 弘幸	茨城県水戸教育事務所 主任社会教育主事	運営副部会長	
9		鈴木 昭博	茨城県水戸生涯学習センター 次長兼企画振興課長	運営部会	
10		齋藤 英明	かすみがうら市教育委員会生涯学習課 社会教育主事	広報部会	
11		吉田薫	茨城県県北教育事務所 主任社会教育主事	広報副部会長	
12		宮内 裕子	茨城県鹿行教育事務所 主任社会教育主事	運営副部会長	
13		大久保 正美	茨城県県南教育事務所 主任社会教育主事	会場副部会長	
14		鈴木 勝久	茨城県県西教育事務所 主任社会教育主事	広報副部会長	
15		小野瀬 静香	茨城県県北生涯学習センター 事業グループリーダー	広報部会	
16		川島 敬一	茨城県鹿行生涯学習センター 企画振興課長	会場部会	
17		馬場 美佐子	茨城県県南生涯学習センター 事業課長	会場部会	
18	運営委員	法堂 泰明	茨城県県西生涯学習センター 副所長	広報部会	
19	廷白女兵	渡邊 篤司	常陸太田市教育委員会生涯学習課 社会教育主事	運営部会	
20		宮内 雅史	潮来市教育委員会生涯学習課 社会教育主事	運営部会	
21		安達 忠臣	古河市教育委員会生涯学習課 課長補佐兼社会教育主事	運営部会	
22		島田 広幸	水戸地区社会教育委員担当(小美玉市教育委員会生涯学習課 課長補佐)	会場部会	
23		神山 智恵美	県北地区社会教育委員担当(日立市教育委員会生涯学習課 社会教育主事)	広報部会	
24		永山 由治	鹿行地区社会教育委員担当(潮来市教育委員会生涯学習課 課長補佐)	会場部会	
25		矢内 良則	県南地区社会教育委員担当(土浦市教育委員会生涯学習課 課長補佐)	会場部会	
26		伊澤 夏穂	県西地区社会教育委員担当(結城市教育委員会生涯学習課 主事)	広報部会	
27		新木 圭彦	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 専門調査員	広報担当	
28	協力委員	戸倉 深希子	福島県教育庁社会教育課 主任社会教育主事	広報担当	
29	加力女兵	知久 鉄平	群馬県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事	広報担当	
30		多々納 真治	神奈川県教育委員会教育局生涯学習部生涯学習課 主幹兼社会教育主事	広報担当	
31	監事	澤畑和宏	株式会社茨城新聞社地域連携室 部長(NIE事務局長)	-	
32	皿尹	瀬尾 知也	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 課長補佐(総括)	-	
33		田山善堂	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 課長補佐(振興)	-	
34		大月 光司	茨城県生涯学習・社会教育研究会 事務局長	-	
35	事務局	菅谷 政之	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 社会教育主事	-	
36		岩上 賀子	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 主査	-	
37		佐藤 孝弘	茨城県生涯学習・社会教育研究会 事務局次長	-	

### 会教育交流会

子どもの成長を支える事例を報告するなど 明らかになった。 り、住民による学校教育支援が進む様子が 地域コミュニティ協議会について発表があ 談員、民生委員・児童委員などで構成する TA、NPO、防災士、消防団、青少年相 会を中心に、シニアクラブ、子ども会、P した。このうち、同県神栖市からは、区長 流会を開いた。茨城県内外の非営利団体が 回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交 茨城県教委など2団体は10月28日、第9

禍の中でのオンライン・ 開催。本年度はコロナ 大会の経験を踏まえ、 この催しは年に1回 縄県まで15都県から90 人の参加があった。 栖四中学区地域コミュ 神栖市の発表は、神 25年、「大野原小学校 ニティーの重要性が一トした。 層深く認識され、平成

ンラインでは、北は岩 委員など172人、オ は8都県から社会教育 式とした。現地会場に た上でハイブリッド形 水戸市内に会場を設け、ニティ協議会が担っ 3校がある。 東日本大 四中学校、大野原小学 中学校区には、神栖第 た。それによると、同 校、大野原西小学校の 学区地域コミュニティ も拡大し、「神栖四中 を大野原西小学校区へ 議会」を設立した。 区地域コミュニティ協 平成31年に活動地域 いる。 会、防犯防災部会、広 環境部会は、学校清 などのお楽しみ会など

手県や秋田県、南は沖

震災を契機に、コミュ

協議会」としてスター

掃に協力。校外では、

は、中学生もボランテ

実践内容を報告する神栖四中学区地 域コミュニティ協議会の樋口義則会 (左奥と画面)

## 神栖市

消防団などで

えなど、住民と一緒に を行い、地域の防災力 訓練・防犯勉強会など フラワーロードの花植 員や教職員も積極的に る。勉強会には、市職 の向上を目指してい 防災訓練・資機材取扱 取り組んでいる。 目宅前や公園の清掃 参加している。 防犯防災部会では

っている。 語コンクールなどを行 安全点検や交通安全標 を入れ、児童通学路の いる。交通安全にも力 校時の見守り活動の日 朝のあいさつ運動と下 協力者と共に活動して と定め、会員や地域の また、第3月曜日を

訓練

災

部会、役員会を置いて 員も協力。夏のスイカ 報交流部会、文化体育 行に当たっては、教職 協議会には、環境部の中で一番大きな交流 みに開催している。こ イベントだという。実 れは、同協議会の活動 割り、冬の餅つき大会 体験」を夏休みや冬休 「お楽しみ会や昔遊び 広報交流部会では、

夏・冬にイベント

ィアとして参加してい 文化体育部会では、 このような取り組み 人のつながり生む わせたことで、部会が あるメンバーを組み合

ている。 ツ大会などを行い、地 の生活リズムの整え 化につながった。活動 ていきたいと熱く語っ 同協議会が運営を行っ 域交流が図られるよう り、芸能発表会、シニ 域の方々に開放してお を生涯学習の場とし コミュニティセンター と、親子・地域交流を ア輪投げ大会、スポー く、利用登録団体や地 役員会は、2学期へ り、人材や組織力の強 れ、地域、団体の枠を が生まれた。協議会活 動を小学校区から中学 超えて、共通の認識を 体制の仕組みが確立さ を通して、各地域に、 は外部機関に認めら、 校区に広めたことで、 持つ人々とのつながり 協議会への協力、支援 新たな会員の加入によ もこの取り組みを広げ 栖四中学区でない所に ・今後も、協議会と学 た 人で考えてつくってき ことを重視し、多くの 動が活性化してきた。 た 校が互いに協力し、神 方について理念を持つ や活動の在り方、考え まとまりやすくなり活 第三に、組織の目的

目的として、夏休み後 えている地域の人々と 取り組み、ここまで続 画している。 見つけるまちなか探検 小学校の生活科の授業 操を実施している。 半の1週間、ラジオ体 講演会も毎年開催して 第二に、組織や部会 で、外部講師を招いてになった。 り、地域防災力の向上や賛同するメンバーが いのできるまちづく ニティーに対する理解 児童・生徒の関わりを に協力。学校生活を支 を目的としたテーマ 多くおり、組織力の基 や、昔遊び交流会に参 また、同協議会では、 自助・共助・助け合 が集まる中で、コミュ ら10年間幅広い活動にあった。3会場を設け 動を振り返り、発足か 県から計9本の報告が つながった。 けてきた三つの理由を れ、さまざまな受賞に 挙げた。 会長は、これまでの活 さまざまな団体、個人 第一に、発足当初に に分かれて感想や意見 同協議会の樋口義則 場では報告の後、報告 分科会形式とし、各会 群馬、神奈川、福島各 茨城県に加え、栃木、 準備も着々と始まって が開かれる予定。その 全国社会教育研究大会 を述べ合った。 を聞いた人が数人ずつ いるという。 今回の交流会では、 水戸市では来年度、 (特別記者・渡邊康

の編成では、共通性の

### 歴代大会テーマ等

#### 【第 | 回大会】会場:茨城大学

日程	平成27年11月7日(土)、8日(日)		
大会テーマ	県域を越えて「学びによる地域づくり」の輪を広げよう!		
特別講演	講 師:三浦 清一郎 氏(月刊生涯学習通信「風の便り」発行人、編集長) テーマ:社会教育不要論への挑戦 ~学習から教育への再修正こそ立国の条件~		
事例発表 カテゴリー	○学校・家庭・地域の連携 ○指導者養成・研修 ○青少年教育 ○地域課題の解決に向けた取組 ○ボランティア関係		

#### 【第2回大会】会場:茨城大学

日程	平成 28 年 10 月 15 日 (土)、16 日 (日)		
大会テーマ	今こそ社会教育の底力を!		
特別講演	講 師:明石 要一 氏(千葉敬愛短期大学 学長) テーマ:社会教育に問う!今、社会教育にできることとは		
事例発表 カテゴリー	○学校・家庭・地域の連携 ○家庭教育支援 ○地域課題の解決に向けた取組 ○青少年教育		

#### 【第3回大会】会場:茨城大学

日程	平成 29 年 10 月 7 日 (土)、8 日 (日)		
大会テーマ	社会教育の大きな波を起こそう!		
特別講演	講 師:三村 信男 氏(茨城大学 学長) テーマ:国連持続可能な開発目標(SDGs)がめざすもの ~世界と地球はどうつながっているのか~		
事例発表 カテゴリー	○学校・家庭・地域の連携 ○地域課題の解決に向けた取組 ○青少年教育		

#### 【第4回大会】会場:茨城大学

日程	平成 30 年 9 月 22 日 (土)、23 日 (日)		
大会テーマ	LINK to Action!~自分らしい未来のための現場報告~		
トークセッション	登壇者:馬場 祐次郎 氏(全国社会教育委員連合副会長・常務理事)他 テーマ:①社会教育・生涯学習分野の激動期に、社会教育の到達点と意義を確かめる ②関東から情報発信をするために、関東近県生涯学習・社会教育実践研究 交流会が進むべき方向性		
事例発表 カテゴリー	○公民館・施設と地域づくり ○市民の手による活動 ○地域活動と学校 ○環境・国際に関する活動 ○大学・図書館・企業との連携		

#### 【第5回大会】会場:三の丸庁舎

日程	令和元年   2月7日(土)、8日(日)		
大会テーマ	Design to Next 支え合う心と熱い想いで明日を創る		
基調講演	講 師:合田 隆史 氏(尚絅学院大学 学長、日本生涯学教育学会 会長) テーマ:学びの輪を育て、地域の明日をひらく ~社会教育の底力~		
事例発表 カテゴリー	○学校と地域の未来をデザインする ○学びの施設の活動をデザインする ○特続可能な地域をデザインする ○寄り添う心をデザインする		

#### 【第6回大会】開催方法:オンデマンド配信

配信期間	令和2年12月25日(金)~令和3年3月30日(火)		
大会テーマ	Design to Next II ~ウィズコロナ時代の生涯学習・社会教育のあり方~		
基調講演	基調講演 講 師:山極 壽一 氏(京都大学 前学長) テーマ:人類の進化に合った教育とは何か		
その他 パネルディスカッション 「新型コロナウイルス対応の実際」 シンポジウム 「ウィズコロナ時代の生涯学習・社会教育の課題と可能性			

#### 【第7回大会】開催方法:オンデマンド配信

配信期間	令和3年10月1日(金)~令和3年11月30日(火)	
大会テーマ	Design to Next Ⅲ つながり、拓かれる生涯学習・社会教育	
基調講演	講 師:山崎 亮 氏(Studio-L 代表)	
<b>全</b> 调研/	テーマ:社会教育とコミュニティデザイン ~これからの時代の人のつながりとは~	
	○学校・地域と連携した取組 ○家庭教育に関連した取組	
	○まちづくり・地域活性化に関する取組	
事例発表	○公民館・図書館・青少年施設等の特色ある取組	
	○高校生・大学生・企業等が関わった取組	
	○障害者・外国人支援に関する取組	

#### 【第8回大会】開催方法:オンライン配信、オンデマンド配信 ※全国公民館研究集会と合同開催

オンライン配信	令和4年10月28日(金)
オンデマンド配信	令和4年12月19日(月)~令和5年7月31日(月)
大会テーマ	だから公民館、やっぱり公民館〜公民館の今を学び、明日を見つけ、地域を創る〜
	開催県事例発表 「~人生 100 年時代~「かさま志民」への学びの場を」
全体会	シンポジウム 「公民館はまちづくりの「核」になれるか?
	〜地域の課題に応え、住民が参加する公民館活動〜」
事例発表	○分科会 I 「地域活性化と公民館」
	〇分科会2 「課題解決のための連携・協働」
	○分科会3 「近未来の課題と公民館」
	○分科会4 「地域や団体が設立・運営する「たまり場公民館」は既存の公民館に
	何を教えてくれるのか」
	〇分科会5 「地域住民が運営(参画)する公民館・市民センターの最前線」

### 副部会長から・編集後記



<副部会長から>

### 運営副部会長·鹿行教育事務所 主任社会教育主事 宮内裕子

4年ぶりの参集、新しい素敵な会場ということで、なかなか運営の全体イメージがつかめない中、各部員の方々の見事なチームワークで開催することができました。いろいろな出会いがあり、ネットワークも広がりました。今後もつなげ、広げ、深めていきましょう。

### 会場副部会長·県南教育事務所 主任社会教育主事 大久保正美

今回の交流会は、初めて、開館したばかりの水戸市民会館を利用させていただきました。運営委員や会場部会の皆様のご協力のおかげで、スムーズに進行することができ、実り多き素晴らしい交流会になりました。大変お世話になりました。

<編集後記 事務局・広報部から>

### 事務局·茨城県教育庁総務企画部 生涯学習課 社会教育主事 菅谷政之

4年ぶりの対面開催、また初の試みとして参加方法を対面とオンラインから選択することができるハイフレックス方式での開催となりました。コロナ禍においても「学びを止めない」ために交流会を継続してきた成果が、確実に実を結んだのではないかと感じます。

### 広報副部会長·県北教育事務所 主任社会教育主事 吉田 薫

子供たちが未来に対して夢や希望 を描けるような社会づくり、誰もが幸せ であるウェルビーイング社会の実現に向 けて、この報告書がその一助となること と思います。発表者、広報部、各係に 従事されました皆様方、大変お世話 になりました。

### 広報副部会長·県西教育事務所 主任社会教育主事 鈴木勝久

広報部員の方々には、当日の Facebook配信、そして、発表者の事例発表原稿のまとめ等、大変お世話になりました。おかげさまで素晴らしい報告書が仕上がりました。この報告書が、生涯学習・社会教育の輝く未来への道しるべになると嬉しいです。

### 広報部・かすみがうら市教育委員会 生涯学習課 社会教育主事 齋藤英明

広報部として当日の分科会の配信 や発表者へのインタビュー、報告書のま とめ等に関わらせていただきました。お かげで県内外の素晴らしい社会教育 の実践をされている方々と交わること ができたことは一生の宝物です。貴重 な経験をありがとうございました。



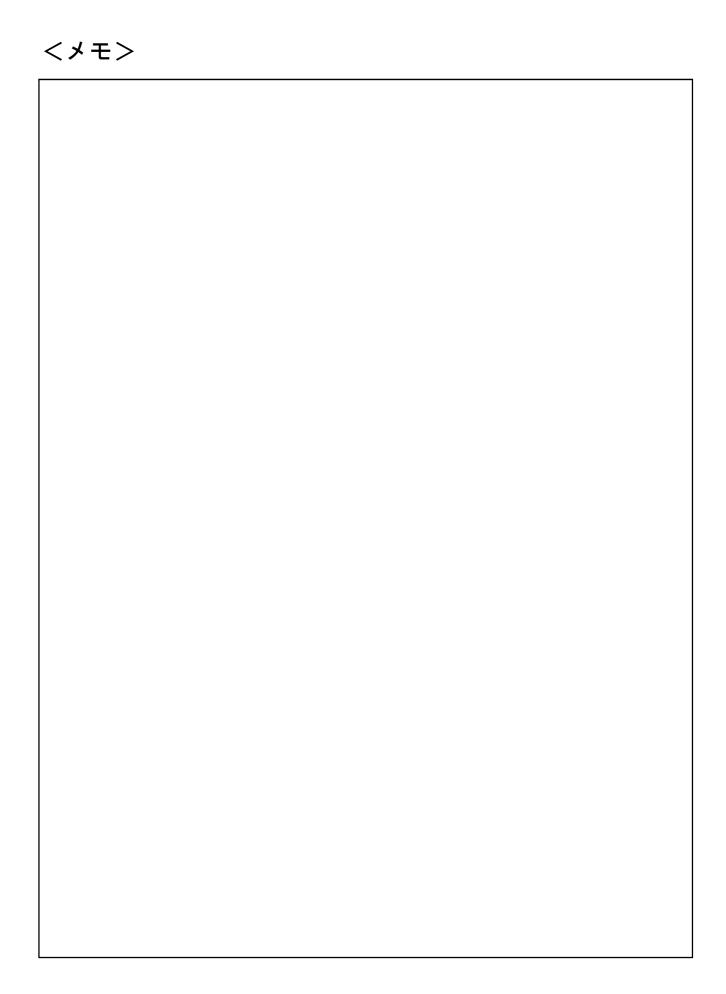
### 未来の生涯学習・社会教育をつくるのはあなたです!! ~一人一人が輝けるよりよい社会にするためには~

頭に浮かんだことをどんどん綴っていきましょう(^^)/

- ・文字に書き出すことで、考えを見える化することができます!
- ・身近な方と考えを共有することで、新たな視点に触れることができます!

○普段 疑問に思っていること【現状】	○こんな社会になってほしい!【目指す姿】
○あなたの立場からできること【目指す社会をお	<b>実現させるための手立て</b> 】
<u> </u>	



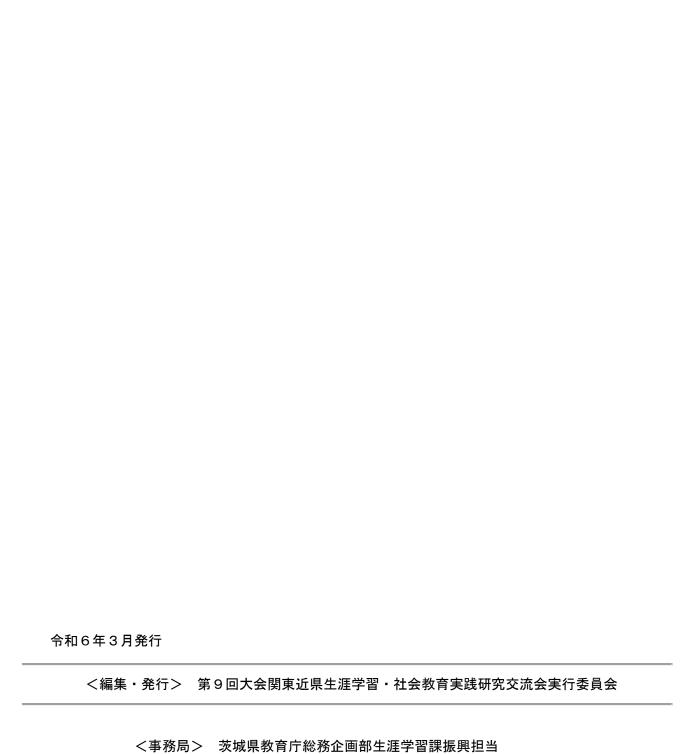


#### facebook でつながろう!



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会のページは QR コードからどうぞ!





〒310-8588 茨城県水戸市笠原町 978 番 6 E-mail shogaku1@pref.ibaraki.lg.jp TEL 029-301-5318 FAX 029-301-5339